

第4次城陽市総合計画について考える

市民まちづくりワークショップ かわら版 第7号



第7回市民まちづくりワークショップを開催しました！

➤ 第7回市民まちづくりワークショップを平成28年7月8日（金）に、南部コミュニティーセンターにて開催致しました。第7回では第6回と同様に、第4、5回で議論した内容や市の各部局が検討した内容を踏まえて事務局が作成した「今後の分野別取組み（案）」について、「市民ができること・地域ができること」の部分を中心に議論いただきました。

— 当日のスケジュール —

14:00～	開会 本日のワークショップの進め方
14:10～	議論のポイント
14:20～	ワークショップ 「市民・地域・行政の役割分担」
16:05～	講評
16:10	閉会

◆ 今西副市長からご挨拶 ◆



城陽市は昭和40年代からの人口急増期を経て平成7年には約8万6千人の人口を擁するまでになりましたが、現在は人口減少期にあります。新名神の開通、新市街地の開発、白坂テクノパークの展開等により、これまで以上に地域振興や産業政策に注力するとともに、情報技術の発達等、社会情勢の変化を敏感にとらえて20年、30年先を見据えたまちづくりを考えていかなければなりません。皆さんの市民力と我々行政の力をしっかり連携することにより、城陽らしい総合計画を策定してまいります。

◆ ワークショップでの議論のポイントについて小島先生からアドバイス ◆

今回は、職員の方には「市民ができること、地域ができること」から資料の説明を始めてもらい、皆さんは具体的に行政が市民に何をやってもらいたいのか、どう参加してもらいたいのかということ率直に聞いてみてはどうでしょうか。市民ができることとは市民一人ひとりができること、地域ができることとは市民同士が協力してできることだと思います。城陽市には様々な組織があり、市民が協力して活動しています。このような組織が互いに協力することにより、新たなまちづくりに繋がっていくのではないのでしょうか。



～ 「市民ができること・地域ができること」について、意見交換を行いました～

【Aグループで出された意見の概要】

第1章 “未来輝く” にぎわいと交流が生まれるまち

③駅を中心としたまちづくりを推進する

・駅周辺のまちづくりについて、積極的に自治会への周知を行うことにより、周辺住民の参画を促せるのではないかと。

⑤新たな雇用の創出を推進する

・企業と市民が接する場をつくり、信頼関係ができれば従業員の定住につながるのではないかと。

⑥商工業の育成を推進する

・特産品である金銀糸について、どのような会社や商品があるのか知られていない。行政のPRが必要ではないかと。

⑦農業の生産振興・基盤強化を推進する

・城陽の特産品であるイチジクは完熟した状態で2日位しか日持ちしないため、流通の面で課題がある。
・JAで直売所を設置しているが、完熟したイチジクを出荷できるので非常に好評である。

⑧観光の多様化・広域化を推進する

・新名神の開通に合わせて、梅やイチジク等の特産品を活かした観光の振興を図れないかと。また、他自治体との連携を含めた広域的な取組みが必要である。

第6章 健全経営で市民から信頼されるまち

①適正で効率的・効果的な行政運営を推進する

・小中学校の空き教室を利活用するとしても、セキュリティや維持管理等の課題がある。
・市が公共施設の状況を広報し、市民の理解を得て、施設の運営に参画してもらうことが重要である。



【Bグループで出された意見の概要】

第2章 “生命（いのち）輝く” 安心とふれあいがひろがるまち

②災害や犯罪を防ぎ、安心して過ごせるまちをつくる

- ・青少年の健全育成のため長期休暇中のパトロールを行っているが、より積極的に市民に参加してもらった方がよい。
- ・防災ボランティアに参加してほしい。

第3章 “笑顔輝く” 愛着と創造力を育むまち

①学校教育を充実する

- ・いじめや不登校について、地域として見守っていく必要がある。
- ・他の自治体では、学校の中に地域の人が活動する拠点が設けられている。城陽でも地域の人が活動できる拠点作りや体制作りが必要。
- ・子ども文化・科学賞等、市主催のイベント等に積極的に参加（応募）することとしてはどうか。

②教育環境を充実し、健全な青少年を育成する

- ・子どもがスマートフォンでいつでもLINEなどを行っている。21時以降は返事をしなくてもよいといったルールを徹底している地域があると聞く。城陽でもそのようなルール作りはできないか。
- ・見守り隊が機能している校区と機能していない校区がある。見守り隊同士の交流の場を作るのはどうか。

③生涯学習・社会教育を充実する

- ・市が図書館の充実を図るのであれば、市民はもっと図書館を使うこととしてはどうか。

④文化芸術を振興する

- ・市内にある遺跡や古墳を通じて、ふるさとに対する誇りと愛着心をもつこととしてはどうか。

⑤スポーツ・レクリエーションを振興する

- ・成果指標は、施設の利用者数よりもマラソン大会や区民運動会等の参加者数とする方がいいのではないか。
- ・城陽市発祥のスポーツについて、市民が普及する必要があるのではないか。



【Cグループで出された意見の概要】

第4章 “生活（くらし）輝く” 自然と調和した快適なまち

②みどり豊かなまちを実現する

- ・市の名木の候補となるような木について、市民から声を上げ、市が調べるような仕組みが必要ではないか。

④安全で快適な道づくりを推進する

- ・「市民が主役の道づくり事業」の取組み内容は評価できる。
- ・道路の安全性向上に向けて、円形交差点（ランドアバウト）を設置したりゾーン30を拡充できないか。

⑤交通安全対策を推進する

- ・高齢者の運転による事故増加が懸念されるほか、子どものヘルメット着用義務が順守されておらず、交通安全に対する当事者の意識向上が必要。

⑥浸水被害の軽減を図る

- ・水を含むと膨らむ土壌など、防災グッズを市があっせんすれば良いのではないか。

第5章 市民が主役、対話と協働でつくるまち

②まちの魅力発信と住民との対話を推進する

- ・各個人がSNSで情報発信を行うにあたり、広報じょうよう等のデータを利用しやすくしてほしい。

④都市間交流を推進する

- ・外国人住民は回覧板が回ってきてても日本語が読めないので中身がわからない場合がある。地域で支援できる人がいればよい。



各グループからの発表後、小島先生に講評いただきました。

本日も各テーブル・分野で熱い議論が展開されていましたが、このワークショップの取組みが、市民が関心を持ってまちづくりに参加し、それを当然のこととするきっかけとなればと感じました。21世紀の新たな地方のあり方として、行政と市民がお互いに協力し「まち」をつくっていくという流れをこれからの総合計画の10年間で形作っていければと思います。議論の特徴として、城陽の魅力発信してほしいという市民の熱意を感じましたが、城陽の「魅力」をうまく発信していくことにより、現在の日本社会が向かっている方向とは違った可能性に繋げることができるのではないのでしょうか。

次回ワークショップでは、総合計画（骨子）の概要を報告し、これまでのまとめを行います。

～第8回は 平成28年 8月 2日に開催予定です～

【お問合せ先】

城陽市役所 企画管理部 企画調整課

TEL:0774-56-4041 FAX:0774-56-3999 E-mail:kikaku@city.joyo.lg.jp

